



G7、外相ご夫人方をお迎えして

広島女学院中学高等学校 校長 星野 晴夫

4月10日～11日、広島でG7外相会議が開催されましたが、10日、日曜日の午後、広島女学院中高では「G7外相会合配偶者プログラム」として、5人の外相夫人の方々をお迎えしました。カナダのクリバー夫人、イギリスのハモンド夫人、フランスのエロー夫人、イタリアのジェンティローニ夫人と日本の岸田夫人です。2日間の多忙なスケジュールの中、直前に市内で原爆被爆者の証言を聞かれた後本校に来校、クワイアアイリスによる歓迎の合唱の中、高校チャペルに皆様をお迎えしました。

高校生の司会進行で、始めに邦楽部による箏曲合奏が披露され、続いて高校生によるプレゼンテーションで、本校の学校紹介と平和教育(課外活動含む)についての説明を行いました。平和教育の内容、核兵器の廃絶を願って署名を集め国連本部に送っている活動や、ネット・デジタル地球儀の広島の地図上に、取材してきた被爆者の方々の映像や証言を記録し、社会に広く共有する「ヒロシマアーカイブ」の活動等が紹介され、皆さん熱心に耳を傾けてくださいました。その後、参加した70余名の高校生は6つのグループに分かれ、各外相夫人・外務省担当官を囲んで自由な話合いの時を持ちました。話題は食べ物の話から平和の問題まで多岐に渡りましたが、外相夫人の皆様は明るく、時にはユーモアを交えて応じてくださり、会話が盛り上がる楽しいひと時となりました。外相と言う、国の重要事項に日々関わっておられる方々の配偶者として、多くのご苦労や気遣いがお有りのはずですが、明るく気さくに生徒達と関わっておられる姿に、女性リーダーのあり方の一面を見せて頂いた気がしました。それにしても、このような場で、少しの恥じらいを見せながらも、積極的に好奇心と問題意識をもって他者と関わろうとする生徒達の姿は、清々しく頼もしいもので、このことをゲストの皆様方も喜んでくださいました。数々の海外研修においても、こうした女学院生の姿勢が良い成果を生み出している事を実感しました。

広島女学院は今秋創立130周年を迎えます。記念すべきこの年に、G7外相夫人の方々が多忙なスケジュールの間を縫って本校をご訪問下さいましたことは非常に光栄な事であり、今後世界に目を向けて活躍していくであろう本校の生徒たちにとっても、かけがえのない素晴らしい経験になったことと思いい、心から感謝いたします。



エロー外相夫人との交流のひとつ



邦楽部の箏曲合奏に聞き入る外相ご夫人の皆様



岸田外相夫人(本校卒業生)からのメッセージ

2016年度運営体制

理事長 中川日出男
院長・学長 湊 晶子
中学高等学校校長 星野 晴夫

幼稚園長 高田 憲治
法人事務局長兼
大学事務局長 大北 和幸

大学・大学院

副学長 桐木 建始
国際教養学部長 波多野五三

人間生活学部長 村上 和保

文学部長 波多野五三

生活科学部長 村上 和保

言語文化研究科長 渡邊ゆかり

人間生活学研究科長 村上 和保

学長補佐 (改組に関する学務担当) 山下 京子

図書館長 佐藤 茂樹

総合研究所長 佐藤 茂樹

障がい学生 障がい学生 佐藤 茂樹

高等教育支援室長 山下 京子

総合学生支援センター長 山下 京子

共通教育部門長 山下 京子

ボランティアセンター長 澤村 雅史

入試部長 河内 清志

キャリアセンター長 桐木 建始

宗教主任 澤村 雅史
宗教主任 前田美和子

国際教養学部

国際教養学部主任 柚木 靖史
国際教養学科副主任 関谷 弘毅

生活デザイン・建築学科主任 小野 育雄

人間生活学部

生活デザイン・建築学科主任 小野 育雄

管理栄養学科学主任 渡部 佳美

幼児教育心理科学主任 中村 勝美

保育士課程担当主任 加藤 美帆

初等教職課程担当主任 戸田 浩暢

中等教職課程担当主任 大橋 隆広

学芸員課程担当主任 福田 道宏

管理栄養士 養成課程担当主任 石長孝二郎

食品衛生管理者・食品衛生監視員養成課程担当主任 渡部 佳美

社会教育主事課程担当主任 福田 道宏

司書課程・学校図書館司書教諭課程担当主任 佐藤 茂樹

日本語教員養成課程担当主任 渡邊ゆかり

建築士課程担当主任 細田みぎわ

実務教育課程担当主任 篠原 收

中学校・高等学校

高等学校教頭 渡辺 信一

中学校教頭 渡部 新

教務部主任 高梨 弘

進路部主任 中村 紀子

広報部主任 畑野 喜信

生活指導部主任 吉田絵理子

GEC部主任 高見 知伸

中1 中野ひかり

中2 山縣 泉

中3 森永 裕子

高1 國岡健太郎

高2 永松 正彰

高3 工藤 敬子

生徒会顧問(中学校) 中原 克芳

生徒会顧問(高等学校) 長谷川 史

人権教育委員 綿田 勝

企画委員 川鍋 元広

企画委員 濱岡由希子

歴史資料館長 佐藤 茂樹

新任者紹介



4月1日、新たな教職員の方々をお迎えました。簡単ですが、みなさまのご紹介をさせていただきます。(順不同、敬称略)

outside Japan.

① 鈴木 実穂

② 大学入試部入試課 事務職員(特別常勤嘱託職員)

③ 母校である広島女学院大学で、頂いたご縁に感謝し、精進して参ります。宜しくお願ひ致します。

④ 中尾 莉奈

① 中尾 莉奈

② 大学図書館図書課 事務職員(司書)(特別常勤嘱託職員)

③ 図書館をより使いやすく、魅力的な場所にしていけるように頑張りたいと思っております。

④ 学院の標語に、躍動と働ける喜びを感じます。若い人達の力をのばす手助けをしていきたいです。

① 古川 由希子

② 中学・高等学校 中高教諭(数学)

③ 広島女学院の生徒の皆さんの成長を見守り、支えていきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

① Jonathan Fisher

② 中学・高等学校 中高教諭(英語)

③ I aim to help students build their English skill and deepen their interest in the world

④ Jonathan Fisher

⑤ Jonathan Fisher

⑥ Jonathan Fisher

⑦ Jonathan Fisher

⑧ Jonathan Fisher

⑨ Jonathan Fisher

退職者のことば

大学教授 本村 佳久

広島女学院大学で21年、建築論・建築設計の授業をさせて頂きました。一般教養としての建築をとのことでしたが、反対の中建築士養成の提案をしました。卒業生は1・2級建築士等として広島・島根・福岡・仙台・四国等で子育てしながら頑張っています。私も彼女達に励まされて、これからも良い建築設計を目指したいと思ひます。

教職員・学生のみならず、心より感謝いたします。ゲーンズ先生等のお心が引き継がれることをお祈りいたします。

① Jonathan Fisher

② Jonathan Fisher

③ Jonathan Fisher

④ Jonathan Fisher

⑤ Jonathan Fisher

⑥ Jonathan Fisher

⑦ Jonathan Fisher

大学准教授 金田 仁秀

今から15年前、英米言語文化学科の講師として赴任し、最後の4年間は国際教養学科の英米文化メジャーの教員として、研究、教育に携わることができました。その間、イギリスにおいて1年間の研修をさせていただくこともできました。あつという間の15年でしたが、さまざまな経験を積ませていただき感謝しています。ここまで働くことができたのは、多くの教職員の皆様の支えがあったからです。本当にありがとうございます。

広島女学院の益々の発展をお祈り申し上げます。

大学特任教授 小松 正昭

国際教養学部開設の2012年4月に着任して以来、あつという間の4年間でした。教養としての経済学を教えることの難しさを感じた4年間でしたが、同時に学生たちの純粋で好奇心に輝く目に多くの刺激を受けた4年間でもありました。

牛田山の美しいキャンパスの中で、よき教職員、そして素晴らしい学生たちと共に4年間を過ごすことができましたことに心から感謝申し上げます。広島女学院大学が現在の逆風を乗り越えてさらなる発展を遂げますよう、陰ながらお祈り申し上げます。

大学特任教授 松浦 正博

31年間にわたって広島女

学院大学で教育学を講じてきましたが、あつと言う間の年月でした。よき学生や教職員の方々に恵まれ、励まされるときも鍛えてもらい感謝しております。大学という場に身を置きながら、「大学」とは何だろうか

と考える日々でした。これから広島女学院大学が、どのような新しい道を切り拓いてゆかれるのか楽しみにしつつ、去ることとい

大学特任教授 三浦 芳助

生活科学部開設の前年、短期大学部(食物専攻)に着任しました。今年は、人間生活学部の一期生、生活科学部設置後20回目の卒業生を送り出す節目の年になりました。この間多くの学生とともに楽しく過ごし、たくさん

の思い出ができました。また、自慢の「教え子」を同僚として迎えることができたことは、望外の喜びでした。白髪の高齢者になりましたが、今後はこれまで支えてくれた「家族」について行こうと思っています。

長い間、本当にありがとうございました。

大学特任准教授 田中 洋子

広島女学院大学では5年間、幼児教育心理学で社会福祉等を教えさせていただけました。福祉の現場から直接、現状や課題をお伝えする機会が与えられたことは私の人生にとっても大変有意義な時間でした。4月

からも引き続き非常勤講師として、勤めさせて頂きま

す。同時に現在兼務しております広島地方検察庁からも司法福祉として、新たな課題をお伝えすることができると思います。児童虐待

大学語学センター准教授 久保田 眞吾

広島女学院での3年間に、国内外の広島女学院同窓生様にいろいろご指導をいただきましたことにお礼申し上げます。また、広島

県高英研、県中英、三原市教育委員会様には講演等にご招聘いただき感謝申し上げます。一時は大学の凋落ぶりに歯止めがかかるかと一筋の光が見えたこともありましたが、大学にたまった澱は一朝一夕には片付かないようです。混迷は続くかと思

いますが、学生の皆様が光の子として歩まれることをお祈りいたします。

大学准教授 Daniela Kato

私の広島女学院大学での経験は短かったですが、とても内容が濃く、有意義なものでした。多くの先生方やスタッフの方々に親切に

彼女らの果敢なチャレンジに、感謝致します。私は皆さまから多くのことを学ばせて頂きました。学院の将来の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

大学専任講師 宮永 愛子

2年という短い期間でしたが、多くのことを学ばせていただき、素晴らしい学生たちと過ごす機会に恵まれました。また、息子も、幼稚園のぼうけんの森で先生方に見守られながら伸び伸びと成長することができました。陰ながら広島女学院の益々のご発展をお祈り申し上げます。本当にありがとうございます。

中高教諭 三浦 芳子

母校での11年間に渡る教員生活では多くの出会いにも恵まれ、非常に充実した毎日をお過ごしすることができました。教える立場になつてから通う女学院は、以前と変わらぬ懐かしさと新鮮さが入り混じった空間でした。至らぬ点も多々あったかと思いますが、これまでお世話になりました関係者の皆さま方に、この場をお借りして御礼申し上げます。

しばらくは育児に専念しますが、女学院で経験したことを今後の人生に活かしていきたいと思

大学事務局キャリアセンター 事務課特任事務職員 嶋家 静

大学で10年間、学生の就職活動支援をする機会を与えてくださったこと、教職員の皆様

が温かく迎え入れ接してくださったこと、大変有り難く心から感謝申し上げます。

色々な業界、職種を目指す学生に寄り添い、高い志、使命感を持った就職活動になるよう支援しました。卒業生にはその志を持ち続け世のために働き、役立たれることを祈っています。

大学事務局キャリアセンター 事務課主管 大田 豊

あつという間の40年間でした。今想うと40年前はバスも正門前までではなく、牛田旭終点から徒歩で大学まで通勤していたことが懐かしく感じます。

仕事は学生課、教務課、キャリアセンター等々を経験し、約15000名の学生達と接してきました。卒業生はみんな元気なのか案ずることがあります。世代は異なれど多くの学生、教職員の皆様にお世話になり、感謝の気持ちで一杯です。

栄えある女学院、校母ゲーンズ先生に感謝致します。ありがとうございます。

大学入試部入試課主管 光田 克文

大学勤務32年間、中高勤務8年間、計40年という長期に亘り勤めさせていた

きました。この間経理課、教務課、総務課、入試広報課、中高事務室のそれぞれ

の場所でも多くのことを学び、経験し、そして微力ながらも自分らしく働かせていただきました。教職員の皆様には大変良くしていただき本当に充実した職場人生だったと思います。

大学実験実習助手 川上 真由子

学生として5年、職員として戻ってきてからの3年間に

出会った多くの先生方、職員の方、そしてよき学生たち。この大学でしか味わうことのできない貴重な経験をたくさんさせていただきました。ここは私にとって帰る家のような存在でした。これまで支えてくださった皆さまに心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、広島女学院大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございます。

その他の退職者

2015年度は記載の方々の他、次の方が退職されました。

大学教授 末永 航

大学実験実習助手 吉岡 千香

大学

大学卒業礼拝・ゲインズ墓前礼拝



3月14日(月)大学卒業礼拝(13時30分)国際教養学部、14時30分)人間生活学部がゲインズチャペルで開催された。

前奏「主よ、人の望みの喜びよ」(J.S.バッハ)讃美歌90番合唱、聖書朗読(「ヨハネの手紙一」四章七(十二節)、祈禱、聖歌隊合唱に続き、日本基督教団広島牛田教会牧師の西嶋佳弘先生による説教が行われた。説教は、「愛されてゐるのだから」と題され、朗読した聖書の言葉について語られた。在学中の学びはすべてキリスト教の教えに基づいており、どのような学問的な成果をあげても、それが愛を持ってなされなければ幸いな人生を送ることはできないこと、効率や成果が優先される世の中の価値観とはもうひとつ違う価値観を持ち、自分の人生の計画や願いよりも神が望む生き方を聖書を通して考え続けてほしいと語られた。また、今なお苦しんでおられる東日本大震災被災者の方々やテロの恐怖を覚え、自分にできる小さな行為を行うこと、自分とは異なる感性や価値観を持つ人々も皆等しく神に愛されている存在であり、他者に対して関心を持つことや無償の愛をもってお互いが真に慰めを与えあうことの大切さを語られた。

最後にゲインズ先生の愛唱歌である讃美歌294番を合唱して終了した。

また、同日15時30分から比治山墓地にてゲインズ墓前礼拝が行われ、各学科卒業生の代表と教職員18名が参列した。讃美歌2編60番合唱、聖書「コリントの信徒への手紙一」三章六(九節)朗読、祈禱の後、チャペル澤村雅史先生により「ゲインズ先生の想い」という題目で、ゲインズ先生と本学院の歴史について語られた。



最後に、ゲインズ先生の愛唱歌294番を合唱し墓前に花束を捧げて終了した。

(宗教センター事務課 中嶋知子)

デザインコンペへの挑戦と受賞報告



生活デザイン・建築学科では学生の様々なデザインコンペへの応募を奨励しています。昨年度末の広島8大学卒業設計展の審査員特別賞と市民賞のW受賞を皮切りに、讃岐うどんこむぎ新商品キャラクタールコンペにて採用・商品化、日本パッケージデザイン展2015とやまパッケージデザインコンペティション「お菓子

カンボジア・スタディツアー遂に実現!

私が2期6年奉仕して来たワイルド・ビジョン国際理事の任期が来る5月で終了すること、現在も理事を務める公益財団法人国際開発救援財団(EDR)が20年間続けてきた国立小児病院支援事業及び給食支援事業の最終年が重なったため、このような働き是非学学生達に肌で感じてほしいと願い、「ワイルド・ビジョン・ジャパン(WVJ)と本学院」の提携プログラムを立ち上げ、澤村雅史チャペレンを中心に一年がかりで準備をし、「WVJ」のプロフェッショナルスタッフ堂道有香さんの助けを得て、2月21日(月)から27日(土)まで9名の学生が貴重な体験をする機会を得た。カンボジア北部のADP(Area



を包む」で「朝日印刷株式会社賞」、広島デザインデザイン2015デザインリーグで「デザインリーグ大賞」を受賞しました。また、碧い石見の芸術祭2015第2回石州和紙デザインコンペでは応募した3点の作品が全て優秀作品に選ばれ、美術館展示されました。また、第26回ザツカデザイン画コンペティションでは、応募作品2794点中1000点選ばれる一次審査を通過しています。

これらの経験は学生の自信と夢への展望に繋がると確信しています。

(生活デザイン・建築学科 准教授 檜崎久美子)

管理栄養学会 秋季講演会報告

2015年度秋季講演会では管理栄養学科特任教授三浦芳助先生に「大豆と大豆加工食品」と題してご講演をいただきました。

大豆の歴史、生体調節機能、および大豆の加工品の特徴を科学的に学ぶ機会になりました。

多くの学生が、健康を維持するためには食品の機能性を理解することが大切であり、今後の学びに繋がったとの感想をもっていました。

この講演会では、2015年度末をもって本学をご退職される三浦先生と広島女学院大学の歴史も、写真やエピソードを交えてご紹介いただきました。

長年にわたり、栄養士管理栄養士養成にご尽力いただいた三浦先生のご指導を忘れることなく、今後も学会を通して、栄養科学に関する学術的研究を行い、学生の資質向上に努めなくてはならないと、覚悟を新たにされる機会となりました。

これからも広島女学院大学の教育にご支援をよろしくお願いいたします。

(管理栄養学会 会長 下岡里英)

松浦正博先生 最終講義



2月3日、幼児教育心理学科特任教授松浦正博先生の最終講義が行われました。

松浦先生は1985年に本学文学部に着任以来、31年の長きにわたって、要職を歴任され、幼児教育心理学科の設立をはじめ本学の発展に尽くしてこられました。

最終講義の題目は「Jean-Jacques Rousseauの今日的意義を求めて」でした。講義は先生の大学時代の西洋教育思想との出会いから始まり、ルソーの教育思想がその時代背景を交えつつ語られました。よきものとしてこの世界に生まれてきた子どもを見守り育てていくことの大切さについて、幼心の教育理念と重ね合わせながら改めて学ぶことができました。

最後に在学生から感謝の気持ちを含めて花束が贈られ、本日のいただいた教を胸に保育者として社会に貢献していきたいという決意が述べられました。

(幼児教育心理学科主任 中村勝美)

中学・高校

卒業のいじば

卒業生代表 鈴木華乃



広島女学院に入学し、早いものでもう6年がたちました。卒業するにあたって、

広島女学院に関わる全ての方々に、心からお礼を申し上げます。6年間で私は多くの人と出会い、そしてつながることができました。この「人とのつながり」は、想像以上に私自身を成長させてくれました。

女学院の中で密度の濃い時間を過ごすことができたのは、礼拝などキリスト教行事です。朝の礼拝から一日を始められるのはとても幸せなことでした。女学院ならではの「隣人愛」の大切さを感じることもできたと思います。印象に残っているのは、昨年の強調週間での沢知恵さんの講演です。沢さんは、香川県にある療養所でコンサートを開いておられるそうで、講演ではそこにいらつしやつた塔和子さんという方の詩「胸の泉に」の一節から引用した、

「かわらなければ」という主題を掲げてくださいました。この詩には、「かわらなければ この愛しさを知らなければ この甘い思いやさびしい思いもしらなかつた 人はかわることからさまざまな思いを知る」とあります。確かに、6年間通して深く傷つくこともありましたが、仲間とかかわりがあつたからこそ、今の自分の成長があるのだと思います。沢さんの講演を聞きながら、人とかかわることがどんなにかげがえのないことを再発見しました。

そして、忘れられない思い出は、クラスや学年で一致団結した学校行事です。楽しむだけでなく、皆で協力して取り組むことの大切さを学びました。特に沖繩では、沖繩戦に関する熱いメッセージをいただいたり、糸数壕の中に入って当時のお話を聞いたり、平和公園やひめゆりの塔で多くの資料を見たりして実り多い時間を過ごすことができました。

また、女学院はスーパーグローバルハイスクールに指定され、様々な問題について話し合う機会や、外部の方々のお話を聞く機会がぐんと増えました。しかし、それ以前から国際的なプログラムは多くあり、私も以前マウントユニオン大学短期研修に参加しました。ボランティアをしたり、アメリカ文化や平和学について

の授業を受けたり、原爆や平和活動について英語で発表したりと得るものは多くありました。そのときお世話になつた先生は、3年後に女学院にいらつしやる機会があり、そこで再会することができました。時間がたつても人のつながりは簡単には消えないことをうれしく感じ、女学院に感謝する気持ちでいっぱいになったことを覚えていきます。この経験がきっかけとなり、英語を使った仕事が見たいという将来の夢も見つけることができました。

私が学校生活の中で最も多くの時間を費やしたのは、何と言つても部活です。中学二年生になって演劇部に入り、個性豊かな先輩、後輩、そして同級生に出会つたことで、生活は大きく変わりました。先輩との上下関係、そして後輩の手下として行動することは私にとつては初めての経験でした。何より、一つの劇を作るという作業はとても難しいことでした。中学生の頃は、思つたような方向に進まないときは険悪な雰囲気になるなどの葛藤がありました。高校生になってやつと、人の意見に耳を傾けることがいかに大事であるか肌で感じるようになりました。最後の公演のときも、そのことを強く実感しました。練習を始めたときは受験のことも考えなければならず、春休みが始まるころになつてもまだ完成し

ていませんでした。しかし、ここで独りよがりな行動をとつたりするのではなく、周りのみんなと意思疎通を図ることが大事だと思ひ直し、各々が自分の持つていけるものを出し切るという気持ちで、本番の日まで練習しました。その結果、公演を成功させることができたのです。中高を通して活動してきましたが、決して出来のよい先輩や後輩であれなければありません。私を支えてくれた部員の仲間や先生とのつながりがあつたからこそ、部活をやつてきて本当に良かったと思へ

ミャンマー研修で感じたこと

私達中学生4名と高校生6名は、1月19日から23日まで、SGH事業の一つとして、英語力の向上と開発途上国への支援の方法を学ぶことを目的に、ミャンマーを訪れました。

研修は主にヤンゴン市内でおこなわれ、日本の中高生初のホームステイも実現しました。研修では、イ



るのです。最後に、私をずっと応援してくれていた両親に、感謝の言葉を述べたいと思います。勉強のことも、部活のことも、ある時は相談に乗ってくれましたし、またある時は優しく見守ってくれました。本当にありがとうございました。

広島女学院でたくさんの人とのつながりを通して学んだことは、私たちに届けかけがえのない財産です。ここで学んだことに誇りを持って、これからの人生を歩んでいきたいと思ひます。

インターナショナルスクールや公立小学校を訪問して、英語でのプレゼンを行つたり、折り紙交流を行いました。他にも、開発途上国への支援を行つているJICA(国際協力機構)や認定NPO法人AAR(難民を助ける会)のミャンマー事務所を訪問し、障がい者支援の施設などを見学しました。貧しくて学校に通うことのできない子供たちが無償で通えるように、日本の支援団体「バゴダの会」の古庄重生さんによつて建てられた小学校も訪問しました。子供たちに縄跳びや折り紙を教えたり、お菓子を渡したりして、とても喜んでくれました。私達も皆さんから預かつた支援物資を直接手渡せたことで大きな達成感を感じ、幸せな時を過ごしました。

中高文化部
春の公演のお知らせ
会場:中高ゲインズホール

●高校音楽部
賛助出演 高校邦楽部
3月27日(日)14時
「OSANZAI」
「日本の四季」
ほか (終了)

●ダンス・ミュージカル部
4月14日(木)16時35分
「Egais」
「フェアリーズ」
ほか (終了)

●中学演劇部
4月16日(土)13時
「未来予想図」
萩原詩穂 (終了)

●中高吹奏楽部
4月17日(日)14時
「キリストの受難」
「Joinメドレー」
ほか (終了)

●高校演劇部
4月23日(土)13時
「雨と夢のあとに」
作成井豊・真柴あずき

●中高マンドリン部
4月24日(日)13時半
オペレッタ
「ぶどう畑の恋より」
第1曲〜4曲 ほか

今回の研修で、私達はミャンマーの人々の純粋さや心の温かさを深く感じました。学んだことを発信して、支援の輪をさらに広げていきたいです。
(中3 参加生徒)

幼稚園

LOVE & PEACE
CONCERT

「大好きなおうちの人が、自分たちの歌声で嬉しい幸せな気持ちになりますように。」「世界中が喧嘩や争いのない、歌や笑顔があふれる場所になりますように。」21回目となったLOVE & PEACEコンサートの第一部では、一人ひとりの子ども達がそれぞれの平和への願いを抱きながら、学年ごとに選んだ、日頃から親しんでいる歌を心をこめて歌いました。また第二部では、「ゲスト「つゆくさ」さんの朗読・ギター・マンドリンによる、平和の思いあふれる素敵なアンサンブルコンサートを楽しみ、会場が一つになって、世界の平和を願い祈るときを過ごしました。

(幼稚園 有里 亜友美)



お茶をたてているところを見せてもらいました



お抹茶、おいしいね。



お菓子を食べて待ってね!

年中組の子どもたちが、今年も地域で茶道をされている山田和子さんのお宅にお招きいただきました。お茶のたて方を見せていただき、緊張して固い表情だった子どもたちですが、一人ひとりの前に運ばれてきたお菓子とお抹茶の香りでお茶の仕方を教えるお招きを受けた子どもたちは、お茶の飲み方や美しいお辞儀の仕方を教えてもらい、子どもたちは真剣に聞き入っていました。お招きを受けた子どもたちは、「次は私たちが!」とお茶会ごっこを始めました。温かい地域の方との繋がりに感謝しています。

お茶会

(幼稚園 櫻木 景子)



みんなで声を合わせて歌うって、楽しいね!



3月は広島ワールドミュージアムの菊間馨さんと共に、親子で春の山を散策しました。かぐや姫と出会いそうな見事な竹林では、大きな竹を切り倒し、器や花瓶、お箸など思い思いの物作りをしました。また、蔦でターザンロープをしたり野鳥のさえずりに耳を傾け、冬芽に春を感じながら散策や自然体験を楽しみました。新年度も多くの家族が集い楽しめるプログラムを行う予定です。

(幼稚園 久保木 裕子)

ファミリーデー

第54回 卒園礼拝

3月17日、感謝を持って卒園礼拝を共に守らせていただきました。2015年度は、65名の卒園生が園を巣立っていき、神様のお守りの中、仲間と共に豊かな園生活をたくり出し、周りの環境とのつながりの大切さを学んでまいりました。出合ったすべての出来事がこれからの歩みの糧となり、ますますにお祈りしています。

(幼稚園 古重 歌織)



事務局

会議報告

第139回理事會

2016年1月26日14時から開催。

選任事項として、次期中学及び高校教頭について、星野校長から、中学は渡部新教頭、高校は渡辺信一教頭を推薦され、決定した。任期は、両氏とも来年度から2年間。

審議事項として、幼稚園任期付教員である桑原ユミ教諭を来年度から専任登用することを決定した。

次に、大学教員の人事として、国際教養学科のDaniela Kato准教授の退職に伴い、カリキュラム運営ができなくなることから、後任の専任教員を採用することを承認した。また、同学科の末永航教授から今年度末で退職したい旨の退職願が出されたことと、これに伴う補充人事は行わないこととの報告があった。

次に、今年度末の契約期間満了による退職者(特別任用専任教員4名、常勤嘱託職員2名、任期付教員及び特別専任職員3名)に対し、慰労金を支給することを決定した。

報告事項として、各校区からの学事報告の後、今年度末退職者4名に職員退職金規程に基づき退職金を支給する旨報告があった。続いて、中川理事長から、維持会問題に係る経過報告と、警察から検察に捜査状況が書類送付されたこと

報告があった。

3月定期評議員會

2016年3月18日14時35分から開催。

選任事項として、今年度末で任期満了となる評議員3名(森永裕子氏、大矢みどり氏、向井希夫氏)を再任した。任期は、森永氏は来年度1年間、他2名の方は、来年度から3年間。山下評議員はご息女卒業に伴い退任となったが、後任は調整中との報告があった。

次に、今年度末で任期満了となる利島監事の再任について同意した。

諮問事項として、2015年度第二次補正予算案、2016年度事業計画案、借入金(私学事業団からの借入金を他の金融機関からの借換えにより繰上償還するもの)、2016年度予算案について、赤字予算をめぐり厳しい意見や今後の対応についてのやりとりの後、承認した。

次に、理事長ガバナンスの強化等のための「寄附行為及び寄附行為施行細則」の変更、「事務組織規程」及び「職員の人事・職務に関する規程」の変更について承認した。

報告事項として、各校区からの学事報告があった。

第140回理事會

2016年3月22日14時から開催。

審議事項として、2015年度第二次補正予算案、2016年度事業計画案、借入金、2016年度予算案について、学納金の見直しや今後の手立て等についてのやり

とりの後、承認した。

次に、中高人事として、非常勤講師2名(竹林拓也氏・和田知亜紀氏)の来年度からの専任登用を承認した。

次に、今年度末退職する常勤嘱託職員1名に対し、慰労金の支給を決定した。

次に、理事長ガバナンスの強化等のための「寄附行為及び寄附行為施行細則」の変更、「大学学則」及び「幼稚園学則」の変更、「幼稚園一時入園に関する規程」及び「預かり保育運営規程」の制定、「事務組織規程」、「職員の人事・職務に関する規程」同規程細則の変更、事務・技術職員への1か月単位の變形労働時間制導入等に伴う「就業規則」の変更、組合交渉経緯や結果を踏まえた「給与規程等」の変更について決定した。

次に、名誉教授称号授与規程に基づき推薦があった3名(松浦正博氏、三浦芳助氏、本村佳久氏)へ名誉教授称号を授与することに同意した。

次に、中高寄宿舎跡地の駐車場用地としての貸付期間満了(2016年4月7日)に伴い、引き続き賃貸契約を締結することについて承認した。

報告事項として、今年度末に任期満了となる利島監事の再任(任期は2年間)したこととの報告の後、各校区からの学事報告があった。

第141回理事會(臨時)

2016年3月29日14時から開催。

審議事項として、高等学校学則改正を承認した。

歴史資料館だより(27)

オープンキャンパス全5回で、323名の高校生が来館があった。

女学院高校卒業生で、広島大学の院生が、博士論文作成のため、12回来館された。当館を思い出して下さったことは嬉しいことであった。司馬遼太郎氏が、本学を明治時代、社会に貢献した10の大学の一つに挙げていたことを思う。

今年度は被爆70年の年であったので、パルチコフ先生愛用のバイオリンの貸し出しが多く、7回あった。5年に一度開催される「核不拡散条約再検討會議」がニューヨークで開催され、5月2日「核廃絶を願うコンサート」において演奏された。

ト)において演奏された。

9月16日、NHK「希望のメロデー」コンサート(アステールプラザ大ホール)の演奏会があり、10月30日にテレビ放映された。そのデイレクターが本学日卒業生であったことも嬉しいことであった。

学院関係では、同窓会主催で、8月1日に「平和への祈り」コンサートがゲインズホールで催された。被爆バイオリンが広く知られるようになった。平和への祈りの思いが全ての人の心に届くことを祈る。

130年史を現在作成中である。御執筆の先生方には、通常業務に加え

てのことであり、心苦しくあるが、後世に誇れるものをと思う。
(歴史資料館長 佐藤茂樹)

歴史資料館来館者統計表

(2015.3.1~2016.2.29)

| 月 | 学生・生徒 | 教職員 | 卒業生 | 一般 | 計 |
|-------|-------|-----|-----|-----|-----|
| 3・4 | 22 | 30 | 5 | 14 | 71 |
| 5・6 | 13 | 24 | 9 | 85 | 131 |
| 7・8 | 36 | 22 | 5 | 259 | 322 |
| 9・10 | 15 | 18 | 7 | 78 | 118 |
| 11・12 | 10 | 19 | 3 | 17 | 49 |
| 1・2 | 5 | 17 | 4 | 17 | 43 |
| 計 | 101 | 130 | 33 | 470 | 734 |

~広島女学院創立130周年を記念して~
講演とオルガンコンサート

講演者

湊 晶子(広島女学院院長・学長)
演題:「女子教育が世界を変える」

オルガニスト

内海 恵子
桜美林大学オルガニスト・同大学兼任講師
(講演者の長女)

内海 彩花
東京芸術大学オルガン科3年(講演者の孫)

※親子三代に亘る女性キリスト者による奉仕を通して本学の建学の精神を肌で感じていただければ幸いです。

日時

2016年9月24日(土)13時30分より

会場

広島女学院中高ゲンスホール
広島市中区上職町11-32

※詳細が決まり次第、大学HP(<http://www.hju.ac.jp/>)、チラシなどにてご案内させていただきます。

事務組織改編による人事

2016.4.1付(順不同)

Table with 3 columns: Name, (New), (Old). Lists staff changes for administrative organization.

配置転換による人事

2016.4.1付(順不同)

Table with 3 columns: Name, (New), (Old). Lists staff reassignments.

理事會選任

次期校長 (2016.4.1) 星野 晴夫
次期副校長 波多野 五三
次期国際教養学部専任講師 関谷 弘毅
次期国際教養学部専任講師 山内 光哉様

人事

30年勤続者 佐藤 茂樹 中原 克芳
20年勤続者 麻尾 順子
前田 康臣 山縣 泉
下高呂千春

表彰

名誉教授 松浦 正博 三浦 芳助
本村 佳久

称号授与

評議員會選任

評議員 森永 裕子
大矢 みどり 向井 希夫
(2016.4.1) (2017.3.31)

理事長選任

利島 保
(2016.4.1) (2018.3.31)

退任

評議員 山下 竜正

教職員動静

3月31日受付分まで

結婚

馬場 一葉
(ポランティアセンター)
事務課職員 藤本と改姓

関谷 弘毅
(大学国際教養学部専任講師)

山内 光哉様
(旧大学教授)

百天
(旧大学教授)

2015.12.13

寄附

- List of donations with names and amounts. Includes 3月31日受付分まで and various departmental contributions.

同窓会からのお知らせ

創立130周年記念行事 湊晶子院長・学長講演会

演題:「キリスト教史2000年と広島女学院130年」
日時:2016年7月30日(土) 13:30~15:30
会場:ホテルグランヴィア広島

広島女学院平和祈念式

日時:2016年8月6日(土) 10:00~
会場:広島女学院中学高等学校慰霊碑前

バイブルクラス(聖書を学ぶ会)

日時:毎月第3木曜日 13:30~15:30
会場:同窓会館
女性や弱者の視点から語られている「ルカによる福音書」を共に学びませんか。講師は小田部 三恵子先生

お問い合わせ

同窓会事務局 TEL・FAX 082-221-1059
皆様のお帰りをお待ちしております。

- Column of names and amounts for donations, including 加藤 弘輝様, 渡辺 信一様, etc.

日誌鈔

- Column of dates and names for the diary, including 3.15(火) 大学卒業證書授与式, etc.

編集後記

「今ひとときは心も浮き立つものは、春のけしきにこそあめれ。(徒然草第十九段)」
盛りりの桜の上に広がる青空を見ると、心が浮き立つものです。「希望」そのもののような新入生たちを見ると、私たちも希望を新たに歩みを進めたいと思います。今年度もまた新たな歩みをはじめましょう。

(中高 綿田)